

JUSE-QCS

第119回品質管理シンポジウム(119QCS)

2025. 6/5 Thu～6/7 Sat

<https://www.juse.jp/qcs/>



経営環境の変化に適応するためのTQMの進化 ～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～

特別講演

栗原 聡
慶應義塾大学
理工学部 教授
人工知能学会 会長



基調講演 オリエンテーション

山田 秀
慶應義塾大学
理工学部 教授



講演I

安宅 和人
慶應義塾大学
環境情報学部 教授
LINE ヤフー(株)
シニアストラテジスト



講演II

日覺 昭廣
東レ(株)
代表取締役会長



講演III

井上 俊幸
三菱地所(株)
執行役常務



講演IV

宮崎 知子
(株)陣屋
代表取締役 女将



趣旨



山田 秀 氏

慶應義塾大学 教授
第119回
品質管理シンポジウム
主担当組織委員

TQMの有効性の持続には、経営環境の変化に適応しTQMを進化させる必要があります。第119回QCSのグループディスカッションでは、このTQMの進化を議論します。様々な環境の変化の中で次のaからeを考え、どのようにTQMを変化に適応させ進化させ、具体的な理念、指針、方法として落とし込むことを目指します。

- 製品・サービスによる価値の受け手と経済的対価の担い手が一対一対応している場合には、この担い手を顧客として捉えるのが合理的でした。これに対して昨今は、経済的対価の流れと価値の流れが一対一対応しないビジネスモデルで成功しているものが多数あります。TQMの根幹たる顧客満足において、顧客をどのように定義、可視化、共有するかが課題になります。
- 経済的側面の優良さだけでなく、環境、従業員、社会貢献など様々な側面の目標をバランスよく考慮し、社会から尊敬される企業を目指す必要があります。例えばSDGsの広まりは、経済的側面のみを強調することなく、多側面を考慮して社会の持続性を確保しようというものです。
- 働き方改革という旗印の根幹は、個人により何を重要視するかが異なり、それを尊重することにあります。24時間バリバリ働くことだけが是ではなく、それぞれが望む働き方を実現する仕組みづくりが必要です。

これらのa, b, cが、目指すべき姿に関連する経営環境の変化です。その実現に関する変化として、次も考えます。

- 製品・サービスを通じた顧客、利害関係者、社会への価値提供のためには、自社や系列企業だけでできることに限りがあるので、多くの関係者の連携が必要になります。品質保証の担い手が自社のみならず多くの関係者との連携によりなされるので、昨日の敵は今日の友ともいべき状況になります。
- 情報技術の発展に伴い、様々なデータが活用できるようになりました。バリューチェーン全体でのデータ連携や、オープンデータ化により各種のデータが活用可能になっています。また生成AIをはじめ、様々な情報技術が開発されています。これらの有効な活用は、顧客を含む社会での価値提供の成否を握ります。

このような経営環境の変化を踏まえ、TQMをどのように進化させたらよいのでしょうか？例えば、データやAIの活用は実現手段ですので、標準化、改善などは今までと同じねらいを最先端な方法で実現することになります。また、多くのパートナーと連携しながらすすめる品質保証は、今までにはない新たな考え方、方法の開発が必要になります。サブタイトルの基本の最先端な実践とさらなる飛躍は、このような思いから来ています。品質に関する見識を持つ方々が、膝を突き合わせて議論すればなんらかの方向が見えてきて、具体的な理念、指針、方法として落とし込めると確信しています。これまでのTQMで、変えてはいけないうもの、変えるべきものを導きましょう。

プログラム

開催期日：2025年6月5日(木)～6月7日(土)
会 場：大磯プリンスホテル

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2025年3月現在の表記になっております。

月日	時 間	科 目 (講演テーマは仮)	講演者(敬称略)
6/5 (木)	19:00～20:10	〈特別講演〉進化を続けるAIの行く先 ～人とAIが共生する社会とは?～	栗原 聡 慶應義塾大学 理工学部 教授 人工知能学会 会長
	20:10～20:30	質疑・応答	
	20:30～22:00	GD(1)、談話室	
6/6 (金)	8:30～ 8:40	主催者挨拶	佐々木 真一 (一財)日本科学技術連盟 理事長
	8:40～ 9:25	〈基調講演〉〈オリエンテーション〉 経営環境の変化に適応するためのTQMの進化	山田 秀 慶應義塾大学 理工学部 教授 119QCS主担当組織委員
	9:25～ 9:35	質疑・応答	
	9:35～ 9:40	入替(5分)	
	9:40～10:50	〈講演1〉残すに値する未来を考える(仮題)	安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 LINEヤフー(株) シニアストラテジスト
	10:50～11:00	質疑・応答	
	11:00～11:10	休憩(10分)	
	11:10～12:20	〈講演2〉時流に迎合せず 時代に適合する一東レの経営方針と実践事例一	日覺 昭廣 東レ(株) 代表取締役会長
	12:20～12:30	質疑・応答	
	12:30～13:20	昼食休憩 (50分)	
	13:20～13:30	日科技連事業紹介	日科技連
	13:30～14:15	〈講演3〉三菱地所の目指すまちづくりにおける「エリマネDX」とは	井上 俊幸 三菱地所(株) 執行役常務
	14:15～14:25	質疑・応答	
	14:25～14:30	入替(5分)	
	14:30～15:15	〈講演4〉経営革新につながる働き方改革 ～DXと働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～(仮題)	宮崎 知子 (株)陣屋 代表取締役 女将
	15:15～15:25	質疑・応答	
	15:25～15:45	GD会場へ移動・休憩(20分)	
6/7 (土)	15:45～19:00	GD (2)	
	19:00～19:15	休憩(15分)	
	19:15～20:15	夕食	
	20:15～21:30	談話室	
	8:30～10:00	GD報告(10分×8班 ※予備10分)	司会: 山田 秀 報告: 各班リーダー
	10:00～10:15	休憩	
	10:15～11:35	総合討論	
6/7 (土)	11:35～11:50	第119回 品質管理シンポジウム まとめ	山田 秀
	11:50～12:00	次回(第120回)品質管理シンポジウム案内	120QCS主担当組織委員 永田 靖
	12:00～	昼食・解散	

※GDはグループ討論の略です。

TQMの進化 ～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～

講演概要

6/5 (木) 特別講演

進化を続けるAIの行く先 ～人とAIが共生する社会とは?～

栗原 聡 氏

慶應義塾大学 理工学部 教授
人工知能学会 会長

生成AIの登場はよくも悪くも世界に大きなインパクトを与えましたが、AIエージェントといった更なる進化がすでに始まっています。生成AIが登場した頃の「AIが仕事を奪う」といったネガティブな話題よりも、「いかにAIを活用することで経済を発展させるか」についての議論の方が目立つようになってきました。一方、AIを使い続けると、人への認識的負荷を低減させることで「人の思考能力を押し下げる」という気になる論文も発表されています。今後、加速的に進化するAIと我々はどうのように共生していくようになり、それは人間社会をどのように変容させていくのかについて考察します。



6/6 (金) 講演 II

時流に迎合せず 時代に適合する 一東レの経営方針と実践事例一

日覺 昭廣 氏

東レ(株) 代表取締役会長

東レグループは、「私たちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」という経営理念に基づき、社会の公器であるという考えの下、長期視点での研究技術開発、人を基本とする経営、現場主義を徹底し、日本的経営の良さを強みとしてグローバルに事業を展開しています。

大きく変化する社会、事業環境の中で、DX活用による効率化の推進やサステナブルな社会の実現に貢献する取り組みを積極的に進めることで、今後も基本に忠実に、変化を捉えて社会課題の解決に貢献する素材の開発を進めて社会の発展に貢献してまいります。

これら取り組みと実践事例についてご紹介します。



6/6 (金) 基調講演・オリエンテーション

経営環境の変化に適応するためのTQMの進化 山田 秀 氏

慶應義塾大学 理工学部 教授

品質管理活動は、戦後の導入以来その時々々の経営環境の変化に応じて進化してきました。黎明期にはインフラストラクチャも確保されない中、仕様への適合を目指し5S、QCサークル、標準化、SQC手法の活用、改善の組織的推進な様々な活動を生み出してきました。その後、仕様への適合が当たり前になり、多くの日本高品質な製品、サービスの提供による顧客満足の実現を目指し実現しました。特徴的なのは、全社的な品質管理活動としての推進であり、当時としては世界的に先進的な活動でした。本講演では、まずTQMの進化を経営環境の変化と紐付けながら振り返り、今の時代でも必要な活動を明確にします。次に、現在直面しているTQMに関連する経営環境の変化として、顧客の定義と可視化、バランスよい多側面の経営目標と組織的展開、働き方への希望の尊重、ビジネスパートナーとの連携、AIや横断的データの活用を紹介します。これらを踏まえ、TQMの進化の方向を考察します。



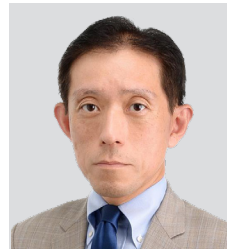
6/6 (金) 講演 III

三菱地所の目指すまちづくりにおける 「エリマネDX」とは

井上 俊幸 氏

三菱地所(株) 執行役常務

三菱地所が大手町・丸の内・有楽町エリアを中心に進めるまちづくりにおいては、ビルなどの建物のみにとどまらず、公共空間やインフラも含めた一体的な将来像の実現に取り組んでいます。一体的にまちを運営する「エリアマネジメント」を高度化する手法として、都市OSというデータ基盤を構築して様々なサービスを提供する「エリマネDX」の活用を紹介します。



6/6 (金) 講演 IV

経営革新につながる働き方改革 ～DXと働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～(仮題)

宮崎 知子 氏

(株)陣屋 代表取締役 女将

創業100年を超える老舗旅館の元湯陣屋。かつて10億円の負債と倒産の危機に直面したが、宮崎氏は夫と共に4代目女将として就任し、IT管理システムの開発や効率化により3倍の売上を達成。さらに週休3日制を導入し、驚きの働き方改革も実現した。当講演では、その取り組みとこれからの姿について語ります。



6/6 (金) 講演 I

残すに値する未来を考える(仮題)

安宅 和人 氏

慶應義塾大学 環境情報学部 教授
LINEヤフー(株) シニアストラテジスト



第1班	TQMの進化に求められるトップのリーダーシップ	
	高橋 勝彦(広島大学 大学院 先進理工系科学研究科 客員教授), 高倉 宏(トヨタ自動車九州㈱ TQM推進室 主査)	
第2班	企業の社会的価値の明確化とその展開、管理	
	佐野 雅隆(拓殖大学 商学部 教授), 増田 有希(㈱キャタラー 品質保証本部)	
第3班	AI時代に対応した、標準化・日常管理の在り方	
	泉井 一浩(京都大学 大学院 工学研究科 教授), 鈴木 浩佳(トヨタ自動車㈱ モノづくり開発統括部 主査)	
第4班	改善の組織的推進	
	村上 啓介(関西大学 商学部 教授), 尾本 勝彦(元パナソニック㈱ 品質・環境本部 本部長)	
第5班	品質保証体系	
	森田 浩(大阪大学 大学院 情報科学研究科 教授), 明石 邦彦(日本精工㈱ 理事)	
第6班	第三者認証、評価制度の活用	
	金子 雅明(東海大学 情報通信学部 教授), 野上 真裕(㈱TMJ 企業価値創造PJ 担当部長)	
第7班	TQMにおける人材育成の変化	
	木内 正光(玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授), 沢 茂樹(㈱リコー 品質統括センター QM推進室 エキスパート)	
第8班	個々の働き方に関する希望の尊重	
	鈴木 知道(東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 教授), 野村 哲史(日本電気㈱ 品質統括部 ディレクター)	

品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

※QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです。

メリット1 講演（トップランナー企業）から、TQMの推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット2 グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット3 参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

入会費用▶企業会員：1口につき年額221,100円（税込み） 団体会員：1口につき年額128,700円（税込み）

入会いただきますと

● 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）を確保できます。

● 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。

● 無料参加枠以外の方は特別価格（57,200円・税込み）でご参加いただけます。

● 本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS独自の会員制度です。ご入会は随時受付けております。

品質管理シンポジウム 会員企業・団体

※2025年2月現在 五十音順 132社

1 アート金属工業 (株)	36 小林製薬 (株)	68 中国化薬 (株)	101 (株) 羽生田製作所
2 (株) アーレスティ	37 (株) 小松製作所	69 (株) 千代田グラビヤ	102 日立 Astemo (株)
3 (株) IHI	38 (株) コロナ	70 DMG 森精機 (株)	103 (株) 日立製作所
4 (株) アイシン	39 サンデン (株)	71 (株) テクノプロ テクノプロ・デザイン社	104 日野自動車 (株)
5 アイシン機工 (株)	40 (株) シーヴィテック	72 (株) デンソー	105 ヒロセ電機 (株)
6 アイシン軽金属 (株)	41 (株) GS ユアサ	73 (株) 東海理化	106 富士フィルム
7 アイシンシロキ (株)	42 (株) ジーシー	74 (株) 東陽テクニカ	ビジネスイノベーション (株)
8 愛知製鋼 (株)	43 (株) ジーシーデンタルプロダクツ	75 東レ (株)	107 富士フィルム
9 アイホン (株)	44 JFE スチール (株)	76 TOTO (株)	マニファクチャリング (株)
10 (株) 青山製作所	45 (株) ジェイテクト	77 (一社) 富山県経営者協会	108 富士電機 (株)
11 旭化成 (株)	46 (株) ジェイテクトエレクトロニクス	78 トヨタ自動車 (株)	109 フジミエ研 (株)
12 (株) EARTHRAIN	47 (株) ジェイテクト	79 トヨタ自動車九州 (株)	110 フタバ産業 (株)
13 (株) 麻生	グラインディングツール	80 トヨタ自動車北海道 (株)	111 (株) プリヂストン
14 (株) アドヴィックス	48 (株) ジェイテクトサーモシステム	81 (株) 豊田自動織機	112 べんてる (株)
15 (株) イシダ	49 芝浦機械 (株)	82 トヨタ車体 (株)	113 (株) 保志
16 AGC (株)	50 清水建設 (株)	83 トヨタ紡織 (株)	114 本田技研工業 (株)
17 NEC プラットフォームズ (株)	51 JUKI (株)	84 トヨタ紡織滋賀 (株)	115 前田建設工業 (株)
18 (株) 荏原製作所	52 (株) 新川	85 トヨタホーム (株)	116 (株) 前田製作所
19 (株) FTS	53 Sky (株)	86 ドリームベッド (株)	117 マツダ (株)
20 エムエスシーソフトウェア (株)	54 (株) SUBARU	87 長津工業 (株)	118 (株) マルヤスエンジニアリング
21 (株) MC システムズ	55 住友理工 (株)	88 (株) ニコン	119 三島食品 (株)
22 エリーパワー (株)	56 関工業 (株)	89 西田精機 (株)	120 三菱電機 (株)
23 大塚化学 (株)	57 積水化学工業 (株)	90 日華化学 (株)	121 (株) 村田製作所
24 オークマ (株)	58 (株) セキソー	91 (株) 日科技連出版社	122 (株) メイドー
25 (株) オティックス	59 ソニーセミコンダクタソリューションズ (株)	92 日産自動車 (株)	123 名北工業 (株)
26 オムロン (株)	60 ダイキン工業 (株)	93 日産車体 (株)	124 安川オートメーション・ドライブ (株)
27 花王 (株)	61 ダイハツ工業 (株)	94 日本精工 (株)	125 安川コントロール (株)
28 鹿島建設 (株)	62 ダイハツディーゼル (株)	95 日本電気 (株)	126 (株) 安川電機
29 (有) 企画システムコンサルティング	63 大豊精機 (株)	96 (株) 日本科学技術研修所	127 UBE (株)
30 (株) キャタラー	64 ダイヤモンドエレクトリックホールディングス (株)	97 日本商工会議所	128 ユーロフィン FQL (株)
31 京西テクノス (株)	65 ダイヤモンド電子 (株)	98 日本特殊陶業 (株)	129 (株) ユニバンス
32 (株) 神戸製鋼所	66 大和リース (株)	99 パナソニック ホールディングス (株)	130 楽天グループ (株)
33 コーセル (株)	67 (株) 竹中工務店	100 パナソニック オペレーショナル エクセレンス (株)	131 (株) リコー
34 小島プレス工業 (株)			132 その他団体 (1社)
35 コニカミノルタ (株)			

品質管理シンポジウム組織委員 (五十音順、敬称略)

※組織名・役職は2025年3月現在の表記になっております。



田熊 範孝

日本電気(株)
執行役
Corporate EVP 兼
CSCO



永田 靖

早稲田大学
教授



宮本 眞志

トヨタ自動車(株)
カスタマーファースト
推進部長



棟近 雅彦

早稲田大学
教授



森 雅彦

DMG森精機(株)
代表取締役社長



山田 秀

慶應義塾大学
教授

※品質管理シンポジウム(QCS)は、上記組織委員が持ち回りで各回QCSの主担当を務めます。

最近の主な講演者

※組織名・役職は講演当時の表記になっております。

第 118 回	第 117 回	第 116 回	第 115 回	第 114 回	第 113 回	第 112 回
						
鎌田浩毅氏 京都大学 名誉教授	木目田 裕氏 西村あさひ法律事務所・ 外国法共同事業 弁護士	桜井 博志氏 旭酒造株 会長	増本 陽秀氏 (株)麻生 飯塚病院 院長	藤井 保文氏 (株)ビービット 執行役員CCO 東アジア営業責任者	長谷部 佳宏氏 花王(株) 代表取締役 社長執行役員	津賀 一宏氏 パナソニック(株) 取締役会長

参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

主 催	一般財団法人 日本科学技術連盟
後 援	一般社団法人 日本品質管理学会
開催日時	2025年6月5日(木) 19:00~6月7日(土) 12:00(6月5日受付開始 16:00~、夕食 17:30~)
会 場	大磯プリンスホテル 〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546 TEL: 0463-61-1111 FAX: 0463-61-6281
参加対象	企業の役員、上級管理職の方々他 ※今回のシンポジウムテーマ、グループ討論に深く関係のある部門とその役割を担う方々のご参加について是非ご検討をお願いいたします。
参加方法	集合参加 現地(大磯プリンスホテル)にて、シンポジウム全プログラムにご参加可能です。 PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~4(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)をご視聴いただけます。許諾のある講演のみシンポジウム終了後の特定期間限定で「見逃し配信」もご視聴いただけます。
	ライブ視聴参加 特記: 1. ライブ視聴参加の場合は、GDへはご参加いただけません。 2. ライブ配信、見逃し配信の配信プラットフォーム、推奨環境はWEBサイトをご確認ください。
参加費 (税込)	QCS企業会員・ 団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠1名分、の無料枠をご利用いただけます。※トップ枠をご利用されない場合、無料枠は「通常枠(1名分)」のみ。無料枠以外の参加は、参加方法にかかわらず、57,200円/1人の参加費を申し受けます。
	一般参加 ライブ視聴参加のみ(132,000円/1人)
	団体参加 (ライブ視聴参加のみ) シンポジウムの各講演、GD報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加(視聴)いただく場合にご利用しやすい参加形態です。 50名まで 550,000円、51~100名まで 880,000円、101~200名 1,100,000円、 201名以上 要問合せ
参加費の請求書は、お申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。	
その他	集合参加の付帯費用 ・別途、大磯プリンスホテルでの宿泊費がかかります。
	・宿泊費の請求書は、株式会社ジャパトラよりお申込み時のご連絡担当者様宛にEメール(PDF)にてお送りいたします。 ・食事代(6月5日夕、6月6日朝・昼・夕、6月7日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれております。 ・会場までの交通費はご自弁ください。

シンポジウム 申込方法

QCS専用Webサイトからお申し込みください。

お申込みはこちらから <https://www.juse.jp/qcs/app/>

集合参加一次申込期日: 4月14日(月)

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申し込みください。

- ・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引続き二次申込を実施します。
- ・ライブ視聴参加の申込締切は、5月15日(木)とさせていただきます。

お申込み
QRコード



シンポジウムに関する 問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビルディング4階
TEL: 03-5990-5846 E-mail: qcs@juse.or.jp

宿泊に関する 問い合わせ先

株式会社ジャパトラ QCデスク 担当: 柏木・鶴川・西森
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-21-1 NKフジビル8階
TEL: 03-6915-3646 E-mail: qcdesk@japatra.co.jp